

三省協議に向けて

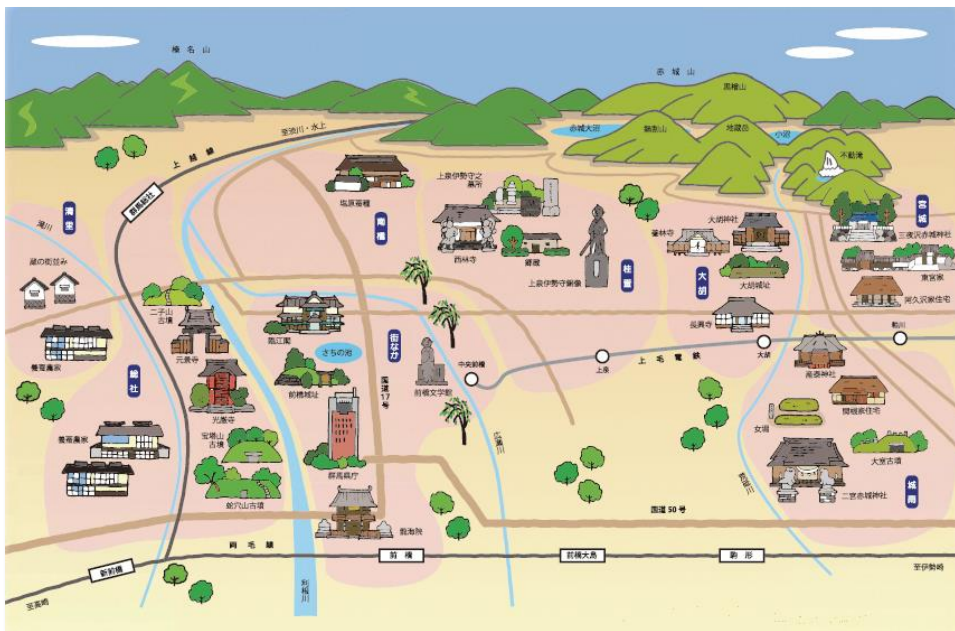
- 第1回三省協議は歴史的風致がテーマ
- どのようにして設定したのかその根拠を示す
- 各地にみられる歴史的風致の具体的な内容

歴史的風致・設定の前提

- 5つの歴史的風致
- 歴史空間マップについて
- 歴史的資源との整合について

計画策定方針（抜粋）

歴史的風致の設定、施設整備の立案等は、歴史文化遺産活用の取り組み（H25～）をベースに検討する



①左記のマップに記載された歴史的資源をベースに前橋を象徴する歴史・地域特性でカテゴリ分け

歴史的風致

その建造物
周辺の
市街地環境

歴史価値の高い
建造物等

その地域で
受け継がれる
人々の営み

※これら3点が揃ってはじめて歴史的風致となる
建造物等があるだけでは歴史的風致にはならない

②各カテゴリに関して、歴史的風致3点セットの有無を考慮し、前橋を象徴する歴史的特徴として再構成

歴史空間マップにおける記載

本庁エリア	前橋城址・臨江閣・酒井・松平
清里エリア	養蚕住宅・蔵
総社エリア	養蚕住宅・古墳・秋元
南橋エリア	養蚕住宅
桂萱エリア	上泉伊勢守
城南エリア	産泰神社・二宮赤城神社・古墳
大胡エリア	大胡城址・牧野
宮城エリア	三夜沢赤城神社・東宮家住宅

カテゴリ分け

関東の華
生糸のまち
広瀬川
養蚕文化
秋元長朝公
東国文化
大胡城下
赤城山信仰

歴史的特徴として再構成

関東の華から生糸のまちへの変遷
生糸のまちを支えた養蚕・蚕種
1500年都市・総社
大胡城下
赤城山信仰

検討材料1・空間マップの抽出根拠

※第2期歴史文化遺産活用委員会による歴史文化遺産調査において、「最初・一番・唯一」に該当するものを抽出、前橋ならではの意を込めて「オンリーワン型歴史文化遺産」と命名。

本庁管内

■酒井家墓所（龍海院）
歴代藩主が眠る**酒井雅楽頭家唯一**の墓所



■東照宮
全国一の転封を繰り返した松平家とともに遷移した社



■前橋城址
「関東の華」の称号は**全国唯一**



■藩営前橋製糸所跡
富岡製糸場に先駆けて**日本で最初**の器械製糸導入



■萩原朔太郎記念館
口語近代詩で**詩壇の日本一**となった朔太郎の生家



宮城

■三夜沢赤城神社
里宮の神々が御神幸する**唯一の社**



総社

■秋元家墓所（宝塔山古墳）
歴代藩主が眠る**秋元越中守家唯一**の墓所



■山王廃寺跡
世界遺産・山上碑にも記載のある**東日本最古**の寺院跡



■総社山王のかしぐね
市内で唯一残るかしぐね群のある集落景観



■総社神社
上野国**549社**の**総社（一番）**にして総鎮守



城南

■二之宮式三番叟
県内で唯一上演される能楽の原型・式三番

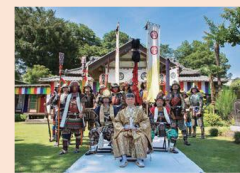


■二宮赤城神社
数ある里宮の中で**最も格式が高い社**



大胡

■大胡城址
牧野家が藩主を務めた地で**唯一残存**する城郭



■大胡電車庫
日本最古の現役電車を保管する車庫



桂萱

■上泉伊勢守信綱
新陰流の祖にして**日本で唯一**の「剣聖」



南橘

■塩原家住宅
重要文化財で田口集落内では**最大**の養蚕住宅



清里

■蔵の街並み
市内で唯一見られる土蔵群





検討材料２・歴史的資源の洗い出し

※指定・登録文化財だけではなく、歴史性のある建造物や伝統行事をすべてピックアップし、オンリーワン型歴史文化遺産と組み合わせて「歴史的風致」に該当するまとまりを設定。

ブロック	町名	地番	名称	形状	認定主体	認定区分
旧市	岩神町一丁目	-	大渡の関所跡	石碑・道標	-	-
	岩神町二丁目	21-1	観民稲荷	建造物	-	-
		7-23	藩営前橋製糸所跡	石碑・道標	-	-
	岩神町三丁目	1-1	神明宮の甲冑	その他	市	重要文化財
			前橋領主松平大和守家の甲冑	その他	市	重要文化財
			奈良三彩小壺付桧峯遺跡62号住居址出土遺物	その他	市	重要文化財
	岩神町四丁目	-	大渡橋	建造物	-	-
	敷島町	216	前橋市浄水場配水塔	建造物	国	登録有形文化財
			前橋市水道資料館（旧浄水構場事務所）	建造物	国	登録有形文化財
		262	旧蚕糸試験場事務棟一棟	建造物	県	重要文化財
			前橋の養蚕・製糸用具及び関連資料	その他	国	登録有形民俗文化財
	昭和町二丁目	6-18	森巖寺	建造物	-	-
	昭和町三丁目	29-11	岩神の飛石	岩石	国	天然記念物
		29-6	飛石稲荷	建造物	-	-
		-	国立原蚕種製造所跡	石碑・道標	-	-
	平和町一丁目	8-1	平和町（旧向町）雷電神社の山車	その他	市	重要有形民俗文化財
			雷電神社	建造物	-	-
	平和町二丁目	5-20	原嶋屋総本家	建造物	-	-
	国領町一丁目	1-18	琴平宮	建造物	-	-
	住吉町一丁目	13-32	橋林寺	建造物	-	-
		-	日本最初の器械製糸所跡	石碑・道標	-	-
	住吉町二丁目	10-2	旧安田銀行担保倉庫（協同組合前橋商品市場倉庫）	建造物	国	登録有形文化財
			前橋乾繭取引所跡	石碑・道標	-	-
		5-22	愛宕神社	建造物	-	-
	若宮町三丁目	-	前橋乾燥場跡	石碑・道標	-	-
	日吉町二丁目	5-7	旧奈良製糸煉瓦倉庫	建造物	-	-
	城東町二丁目	12-11	教徳寺	建造物	-	-
		7-10	前橋鳶木遣り纏振り梯子乗り	伝統行事	市	重要無形民俗文化財
		8-15	諏訪若獅子神社	建造物	-	-

街なかの歴史的風致

- 都市化が進んだ街なかの現状
- 前橋の大局的な歴史と特徴
- 街なかにみられる具体的な歴史的風致①②

街なかにおける歴史的特徴

広く都市化された前橋の中心市街地に見られる歴史的特徴



都市化が進んだ前橋の中心市街地

地方の**中心的都市**として
誇るべき歴史を有するが
歴史的資源は点在する程度



空襲により市街地の
八割が焼失



戦後政策により市内
の広い範囲で都市化
が進んだ



長く続いた不況の
影響で歴史的資源を
手放すケースも増加

歴史を紐解くことで
その理由を明らかに

それでも**街並みに残る
前橋らしさ**の源泉は？

区分	主なできごと
関東の華の誇り	1603 前橋藩成立「汝に関東の華をとらす」、譜代筆頭・酒井雅楽頭家が藩主を務める 「前橋の誇り」の始まり、9代150年の統治で関東の華にふさわしい15万石の城下町へ 1749 度重なる利根川の城地内への浸食、酒井家の転封、名門・松平大和守家の入封 1767 松平家川越へ転封、前橋城取り壊し（第一の危機）・川越藩の分領・陣屋支配（1769） 藩主不在の時代に突入、屈辱の意識から復興を目指す歩みが始まる
屈辱の意識からの復興 ～誇りを取り戻す軌跡～	1817 川越藩主8代斉典へ帰城嘆願書提出、11代直克が幕府へ再築内願書提出（1861） 1867 100年ぶりに前橋城再築・藩復興、しかし半年後に大政奉還・王政復古の号令 1870 日本初の器械製糸を導入した藩営前橋製糸所が開設 1871 廃藩置県の布告（第二の危機）、第一次群馬県成立・県庁は高崎へ 再び都市消滅の危機、「前橋の誇り」を取り戻すための運動＝県庁誘致を開始
県都の繁栄 ～県都前橋生糸の市～	1881 前橋二十五人衆らの活躍により県庁を前橋に決定する太政官布告が発出される 1885 臨江閣本館落成、初代利根橋架橋・線路を現在の前橋駅まで引き込み 1892 市制施行、多大な功績を挙げた生糸商・下村善太郎が初代市長に就任 1910 臨江閣別館落成、一府十四県連合共進会開催「昼夜空前のにぎわい」の報道 廃城の屈辱から140年、失われた誇りを「県都の誇り」として取り戻した 1945 前橋空襲（第三の危機）・市街地の8割が焼失、再び都市再建へ
焦土から水と緑と詩のまちへ	1948 復興祭（後に前橋まつりに改称） 1950 前橋駅から県庁までの区間にけやきを植樹、全国に先駆けて戦災復興完了（1953） 1982 前橋市市民憲章制定、水と緑と詩のまちとしての歩みをスタート

前橋の
市民特性

前橋の大局的な歴史 → 歴史の相関性が強い

①はじめに「**関東の華**」の誇りあり → ②**誇りを取り戻すために**城再建を目指した
→ ③**養蚕・製糸が盛んだから**城を再建できた → ④**城を再建できたから**藩も復興できた
→ ⑤**藩が復興したから**県都になった → ⑥**生糸の力があつたから**県都として繁栄
→ ⑦**県都としての誇りがあつたから**こそ戦後復興も迅速だった

■**関東の華・県都としての誇り**
■**復興への心意気・気概の高さ**
■**生糸のまちの経済力と官民連携**

江戸初期から近現代までの**時代の変遷そのものに前橋の歴史的特徴**がみられる

核となる建造物



城下町の面影
生糸のまちの繁栄
が感じられる風致

前橋の総鎮守「八幡宮」。京都の石清水八幡宮の創祀と同時に勧請と伝わる。戦国～江戸期にかけて前橋城主からの信仰を集め、六斎市が開かれてからは一般の崇敬も集めるようになった。



生糸のまちの風情
が感じられる風致

昭和8年に竣工した「比刀根橋」。アールデコ調のモダンなデザインが特徴的で、往時には多くの人の往来を支えた。戦時中は深刻な被害に見舞われた場所でもあり、躯体には銃弾跡が残る。美しい河畔景観を形成するとともに、近代前橋の歴史を今に伝える貴重な土木遺産である。

営み



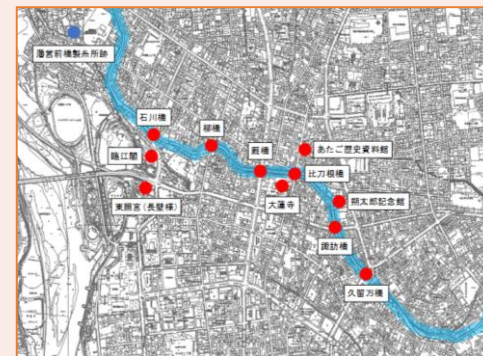
冬の風物詩「初市まつり」。初代藩主・酒井重忠の時代に始まった六斎市（毎月4と9の日に開かれる市）が起源と伝わる。当初は日用雑貨の市であったが、徐々に生糸取引の比重が高くなっていく。その際、市で売られる達磨の目にネズミを防ぐ効果があるとされ、蚕糸業最盛期あたりから「だるま市」へと変貌していったと考えられている。

中心市街地を流れる**広瀬川**は、古利根川を利用した農業用水で、天文12（1543）年までは利根川と称されていた史料が残る。江戸期には舟運として利用され、明治以降は豊富な水量を利用して多くの製糸工場が立ち並んだ。詩人・萩原朔太郎が好んだ場所でもあり、現在はその美しい景観から、「水と緑と詩のまち」の原風景と称されている。

街並み・その他の歴史的資源



初市まつりは、八幡宮に達磨を奉納供養する「お焚き上げ」から始まり、仮宮に市神を移す「**渡御の儀**」へと続く。**渡御の儀**では、江戸時代から続く古い通りを神輿が練り歩く。まつりは国道50号線を通り止めにして行われるが、ここはかつて市が立てられた「**本町通り**」で、生糸取引全盛時には生糸改所が設置された場所でもある。



製糸業全盛時には、**広瀬川沿いに工場が林立**したが、街の更新が進んだ現在、その痕跡は見られない。しかし上流部に流れ込む風呂川沿いには、生糸のまちの端緒となった

藩営前橋製糸所跡碑が記され、その下流には生糸商らの力の粋を集めた臨江閣が佇む。さらに、広瀬川に架かる橋の多くは、欄干や柱の模様に製糸で使用する「カセ」や「大柁」がデザインされており、**生糸のまちの風情**を感じることができる。なお、この辺り一帯は、平成30年に**景観形成重点地区に指定**されている。

核となる建造物



生糸のまちの風情
復興への気概が
感じられる風致

前橋駅から群馬県庁へと続く「**けやき並木**」。昭和25年に戦災復興事業として植樹され、県都の玄関口を象徴するシンボルロードとして親しまれる。沿道には、明治期に建設されたレンガ倉庫や、生糸のまちを彷彿とさせるレンガ調の建物が点在し、前橋独自の景観を形成している。

営み



昭和23年に戦後の復興祭として始まった「**前橋まつり**」。江戸時代からの伝統行事である「**祇園祭礼**」では、華やかな祭礼屋台が城下町を巡行していたことから、前橋まつりではこれを踏襲し、各町による**祇園山車の巡行**が行われる。このほか、神輿や鼓笛パレードなども行われ、市民総参加のイベントとして親しまれている。

街並み・その他の歴史的資源



前橋まつりの**祇園山車**は、各町内を巡行した後、各々まつり会場の集合場所へと移動する。そこから、かつての横山町通りを経由して、明治時代に「繭市場通り」と称された立川町通りへと巡行、各町の**山車を一斉にお披露目する「山車行列」**へと続いていく。

■城下町・県都の面影

- ・前橋城址
- ・県庁舎
- ・臨江閣



■城下町・生糸のまちの風情

- ・広瀬川
- ・風呂川
- ・レンガ倉庫
- ・前橋公園



■生糸のまち・県都の食文化

- ・焼きまんじゅう
- ・片原饅頭
- ・和菓子



■城下町・生糸のまちの繁栄

- ・祇園祭礼
- ・初市まつり
- ・大酉祭



■伝統と革新の共存

- ・大手町教会群
- ・三河町寺院群
- ・長昌寺クリスチャン墓地



■復興への気概

- ・橋りょう
- ・官民連携公共整備
- ・前橋まつり
- ・けやき並木



その他の歴史的風致

- 1500年都市・総社
- 赤城山信仰・蚕種養蚕・大胡城下
- 歴史的風致の分布

総社地区における歴史的特徴

前橋が全国に誇る歴史の宝庫＝古代から近代まで1500年の歴史的資源が集積した地区

総社宿



佐渡街道沿いの本間酒造

建造物

街並み
その他

民に愛された藩主



総社秋元公歴史まつり

営み

世界灌漑施設遺産



営み

天狗岩用水

上野国府跡



街並み
その他

宮鍋神社

山王廃寺



街並み
その他

復元予想図

元総社
総社

総社古墳群



建造物

二子山古墳

養蚕集落の暮らし



建造物

営み

総社山王地区の養蚕住宅とかしぐね

近代こけし



総社創作こけし

営み

上野国の「総社」



建造物

総社神社



赤城山信仰を背景とする歴史的特徴

全国に約300社ある赤城神社の総本山

赤城神社は、赤城山をご神体として祀る神社で、関東を中心に全国に約300社あるといわれ、**大洞赤城神社**や**三夜沢赤城神社**は、その総本宮とされる。各社ではそれぞれの神事が行われるが、月田近戸神社の「**月田のささら**」や、里宮の代表格である**二宮赤城神社**と三夜沢赤城神社の間を赤城の神が行き来する「**御神幸**」は非常に特徴的な伝統行事である。



蚕種・養蚕にまつわる歴史的特徴

生糸のまちを支えた桑と蚕のある暮らし

青梨子町の養蚕住宅



清野町の土蔵群



総社山王地区のかしぐね



田口町の養蚕住宅



「生糸のまち」と称される以前から前橋では養蚕が盛んであった。餌となる桑の栽培は、風通しの良い場所が適地とされ、利根川沿いの高台や、赤城南面の傾斜地には多くの養蚕農家があった。製糸業の衰退とともに養蚕も途絶えたが、**大型養蚕住宅は各地に点在し、養蚕にちなんだ風習は今も継承**されている。

大胡城の城下に広がる歴史的特徴

大胡氏ゆかりの土地に蓄積された歴史



大胡地区は、坂東武者の名門・大胡氏発祥の地。戦国時代には、大胡氏の一族である**上泉伊勢守**が城を保持した。上泉伊勢守はその後、**兵法新陰流**を編み出し、現代に伝わる柳生新陰流の祖となった。江戸時代には**牧野氏**が**藩主**を務め、現在の**町割り**の基礎を築いた。前橋藩への統合後は、**日光裏街道の宿場町**として栄え、夏の風物詩「**暴れ獅子**」は、当時の祇園祭が起源と伝わる。近代以降は勢多郡部をけん引する地域となり、戦前には私鉄会社の**大鉄道網計画の拠点構想**があったが、戦争によって中断した。なお、東京の**神楽坂赤城神社**は、大胡氏の末裔・牛込氏が上野国赤城神社から勧請したもの。

赤城山信仰

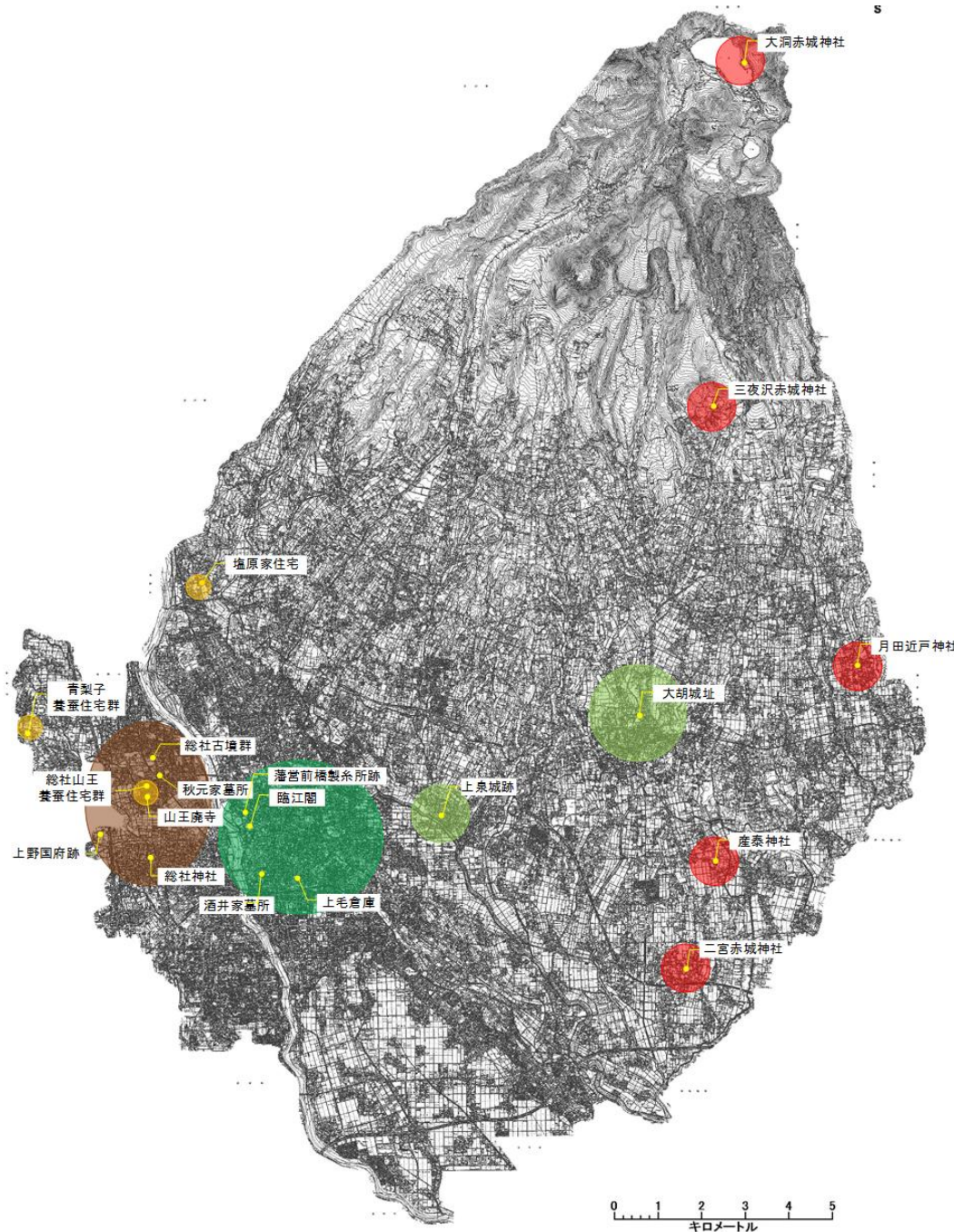
蚕種・養蚕

関東の華から生糸のまちへ

大胡城下

1500年都市・総社

歴史的特徴の相関



歴史的特徴の分布

- 関東の華から生糸のまちへの変遷
- 1500年都市・総社
- 赤城山信仰
- 蚕種・養蚕
- 大胡城下

国交省との協議で、これらが前橋の「歴史的風致」として認められれば、この中から重点区域を設定する